

令和5年度世界に羽ばたく人材育成特別表彰
けん玉ワールドカップ第3位



たしろ まはる
田代 真遥さん

私は中学生の頃から、太宰府にある筑陽学園に通いながら、けん玉の活動に励んでいます。学校の先生方や友人たちは、私の活動を応援してくれており、日頃から支えてもらっていることにとても感謝しています。特に、大会で良い成績を収めた際には、学校に横断幕を掲げて祝福してくれることが本当に嬉しく、大きな励みになっています。

また、太宰府の街並みや歴史ある風景がとても好きで、練習の合間に太宰府天満宮や周辺の名所を訪れることもあります。歴史と文化が息づくこの街は、私にとって活動の支えであり、心の拠り所です。

そんな太宰府の皆さまに良いご報告ができるよう、これからも真剣に取り組み、技術を磨いていきたいと思えます。これからも精進してまいりますので、引き続き応援をどうぞよろしくお願いいたします。

特集

- 20のあなたへ。…………… 2～6
 - ・令和7年二十歳のつどいレポート
 - ・福田愛依さんインタビュー
 - ・Uターンした先輩からのメッセージ

市からのお知らせ…………… 7～11

連載…………… 12～20

なんでも情報コーナー…………… 21～27

太宰府の文化財…………… 28

※掲載記事は編集作業の都合上1月15日時点までの情報に基づきます。配布時のずれなどございましたらご了承ください。

市政ニュース

令和の都だざいふ 市役所で仕事始め

1月6日より太宰府市役所として仕事始めを迎えました。始業する朝8時30分からは、太宰府市産業保有会から寄贈された立派な門松飾りで新春を寿ぐ市役所の正面玄関にて、三役による恒例のお客様ご挨拶からスタートしました。

その後係長以上の職員が一堂に会して仕事始め式を行い、今年一年の心合わせを行いました。楠田市長は「改めて市の為市民の為との原点に立ち返り、私心を捨ててともに持てる力を出し尽くしましょう」と訓示を述べました。



仕事始め式の様子



挨拶をする楠田市長

令和の都だざいふ「梅」プロジェクト



「ポテトチップス合格する梅」の新作を発表しました

カルビー株式会社・福岡農業高校・太宰府市が産学官連携で開発したポテトチップス合格する梅シリーズの新作「うめ韓国のり風味」の完成発表会を昨年12月2日(月)に市役所で行いました。今回のキャッチコピーは「努力はきっとみのりのり」。受験生に勉強の合間に一息ついてほしいという想いが込められています。同日、昨年度の本シリーズ売上金の一部を、カルビー株式会社から市に寄附していただきました。今後、梅プロジェクトの更なる躍進に活用します。



新作の開発に取り組んだ福岡農業高校の生徒たち

学生まちづくり課題解決プロジェクト

第8回太宰府市子ども・学生未来会議を開催

子どもたちのアイデアをまちづくりに活かす学生まちづくり課題解決プロジェクトとして、市役所5階の議事堂で昨年12月25日(水)に、太宰府市子ども・学生未来会議(小学生の部)を開催しました。

市立小学校7校から代表の児童25人が議場の演台に立ち、実現してほしいと思うことを提言しました。例えば、「学校のグラウンドを人工芝にする」「太宰府の新名物として『たびっとケーキ』を開発する」など自由な発想です。傍聴席から保護者や先生が見守るなか、子どもたちは緊張しながらも元気良く発表し、楠田市長や門田議長たちからの質問にもはきはきと答えていました。



提言の内容を発表する子どもたち

まちのトピックス

世界に羽ばたく人材育成 デフバトミントンアジア大会、姉妹で金メダル獲得

本市出身の矢ヶ部紋可さん・真衣さんが、第10回アジア太平洋ろう者競技大会にデフバドミントン日本代表として出場し、姉妹でペアを組んだ女子ダブルスと団体戦で金メダルを獲得したことを報告しました。

2人は本年東京で開催されるデフリンピックに向けて、日本代表になり活躍することを掲げて意気込みを語りました。

楠田市長は「アジア大会優勝本当におめでとうございます。デフリンピックでの活躍を期待し、本市をあげて応援します」と激励しました。



金メダル獲得を報告した紋可さん(前列右)・真衣さん(前列左)

世界に羽ばたく人材育成 ショートトラック全国大会、出場した全種目で優勝

本市在住・筑陽学園中学校2年の大原陽菜さんが、昨年11月に2024/25全日本ノービスカップショートトラックスピードスケート競技会第1戦の3種目に出場し、すべての種目で見事優勝しました。

大原さんは「大会新記録を出すことができ、とてもいい大会になりました。今後は新しい戦い方も勉強して、さらに上を目指したいです」と力強く目標を語りました。楠田市長は「小学生の頃から応援していますが、ここまで来たらけがに気を付けてのびのびと楽しく競技を続けてほしいです」と激励しました。



優勝を報告した大原さん(前列右)